

令和元年度第1回定例会

日 時： 令和元年5月10日（金）午後2時45分から午後4時15分

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）委員7名

（事務局）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査2名、サービス係長、地域資料係長、子ども読書支援係長、総務係長、担当職員2名

図書館長 新委員となり初めての会議のため、会長が選出されるまでの間、事務局が議事を進行することで良いか。（委員了承）

本日は委員7名が出席のため、多摩市図書館協議会規則第4条により令和元年度多摩市図書館協議会第1回定例会を開催する。

多摩市図書館協議会は、多摩市の図書館条例で設置が位置づけられている。所掌事項が多摩市図書館協議会規則第2条に規定されており、多摩市立図書館の運営に関して図書館長の諮問に応じるとともに図書館奉仕について図書館長に対して意見を述べるものとされている。

多摩市図書館条例では委員の任期は2年間で、定数は7人以内と定められている。

（委員紹介）

（事務局紹介）

（配布資料確認）

本日の議題に入る。議題1、図書館協議会会長、副会長の選出について、多摩市図書館条例第4条第5項に基づき、会長、副会長の選出をお願いしたい。

委員 会長に小山委員、副会長に青木委員を推薦する。

図書館長 会長に小山委員、副会長に青木委員の推薦をいただいた。いかがか。（一同賛成）（両委員了承）

では、会長は小山委員、副会長は青木委員にお願いする。

（議事進行を事務局から会長へ）

（会長・副会長挨拶）

会長 議題2、多摩市学びあい育ちあい推進審議会委員の選出について、事務局より説明をお願いする。

図書館長 議題2「多摩市学びあい育ちあい推進審議会委員の選出について」資料1-3を説明。

多摩市学びあい育ちあい推進審議会条例第3条第7号に「多摩市図書館協議会の委員1人以内」とあるため委員1名の選出をお願いしたい。

会長 委員 会長	事務局より説明のあった議題について、委員の推薦をお願いしたい。 学びあい育ちあい推進審議会委員に玉木委員を推薦する。 玉木委員を推薦いただいたがいかがか。(一同賛成)(玉木委員了承) 学びあい育ちあい推進審議会委員を玉木委員をお願いする。 議題3、第1回図書館本館再整備基本設計ワークショップについて、事務局より説明をお願いする。
企画運営担当 主査	本館再整備の事業スケジュールについて説明する。 令和4年の秋の開館を目指し、現在、基本・実施設計の段階で、平成29年の3月に基本構想の策定、平成30年8月に基本計画を策定した。平成30年9月から平成31年1月に基本実施設計業務委託の受託者を公募型プロポーザル方式で選考し、最適受託候補者の株式会社佐藤総合計画と契約を締結した。平成31年2月から令和2年3月までが基本・実施設計となる。基本設計は7月中の完了を目指し、8月から実施設計に入る。令和2年10月から令和4年5月に建築工事を予定、建築工事完了後、開館準備を経て、令和4年秋の開館予定である。 (資料1-1を説明) 第1回ワークショップのグループワークのまとめは、公式ホームページに公表している。資料はグループ別にまとめているが、全体を通して「皆が使いやすくするために」と「公園とのつながり」の意見が多く出ている。 いただいた意見は、次回以降のワークショップに引き継ぎ、図書館だけではなく関係所管課にも情報共有し、協力しながら実現に向けて取り組んでいく。
会長	議題1について意見交換に入る。 事務局に確認したい。昨年度も伺ったが、図書館協議会として意見を述べる機会は今日が最後なのか、この後もまだ機会があるのか。そのことを伺ってから委員のみなさんから発言いただきたいと考えているがいかがか。
図書館本館 整備担当課 長	図書館協議会の日程にもよるが、今後も図書館協議会に意見をいただく機会を設けていきたい。
会長	8月には実施設計に入り、意見を出しても反映されるかどうか難しい時期になる。基本設計の段階の方が、色々な意見を出しやすいと感じている。
図書館本館 整備担当課 長	7月中には基本設計を固めたい。できれば次の図書館協議会を6月中に開催し、意見をいただきたい。
会長	了解した。

図書館本館 3回のワークショップのあと市民説明会の開催も考えている。説明会の
整備担当課 内容の事前提供か事後報告の機会を設けたい。

長

会長

図書館協議会としての意見は、本日と次回6月の開催時に出せるということなので、第1回ワークショップの報告内容などを踏まえ、あるいはそれ以外でも委員の皆さんからご意見やご質問をいただきたい。

副会長はワークショップに参加されていたがいかがか。

副会長

多摩市文庫連絡協議会の活動の中から多摩市に中央図書館ができることを要望してきた。その中でここまで至ったことに私たち会員は大変喜んでいる。会の中からもこのワークショップに複数参加し、各班に分かれ皆意見を言った。意見が言える場であるとともに進め方について、感じたことがあるのでお伝えしたい。2022年の開館が決まり、今設計段階に入りタイトなスケジュールで進めざるを得ないことは理解するが、40人が集まり、班に分かれてワークショップをしたとき、長年注目してきた方と初めて参加した方とでは、理解度がそれぞれ違い、基本構想や基本計画を知らない方もいる。それを皆で共有する時間が必要だと思う。タイトなスケジュールの中で、どのようにしていくのか大変悩ましい問題であるが、基本構想と基本計画は冊子を見ることはできる。しかし第1回の時に、テーブルの上に置いてあったが、置いてある旨の説明が抜けていた。経過の説明はあっても中身を見ることができない方もいた。理解度の違う中で、自分の意見を言うことは大事だが、資料提供が少し不足しているのではないか。資料として基本構想と基本計画を初めての方に配っておけば事前で学習ができる。タイトなスケジュールでやるならば、少々お金がかかることではあるが、資料の準備に工夫があれば良かったという意見が結構あり、私もそのように感じた。初めての方は準備が大事ではないか。2回目には基本計画検討委員会の常世田委員長が来ると聞いているが、その説明も無かった。そのようなことも周知しておく、今回申し込んでいない方でも傍聴者として参加するかもしれないし、PRすることでもっと関心を持つ方が増えるのではないか。

中央図書館は全市的に使っていくものなのだから、もっと多くの市民が参加してくださるようなPRをしてほしい。

会長

進め方の話はもちろん、ワークショップに参加できなかった委員の方もいると思うので、資料の内容についてもご意見をいただきたい。

前回のワークショップは図書館の建設場所、公園との一体感・つながりといったような地理的な空間における図書館の位置付けが話題の中心であった。次回のワークショップでは中身の話になっていくわけだが、図書館協議会としては図書館の外見や配置はもちろん、委員が言われたように中

中央図書館機能という視点からの意見も提示できると考える。ワークショップの内容に関わらず、皆さんが感じていることも含めてご発言いただきたい。

先ほど事務局から「図書館の中では静かな空間だけでなく、色んな年齢層の方が楽しめる空間がほしい。」という意見がワークショップであったと説明があったが、これは最近の社会情勢とも関連する。特に多摩市はそういう意味でも注目されており、こうした視点からの検討は、施設設備の面からも内部の面からも重要だと思う。委員に何うが、武蔵野プレイスは賑やかな図書館の要素も含んでいるところとして注目されてきたと思うが、関係者として参考となる意見があったらご紹介いただきたい。

委員

私が武蔵野プレイスの準備室長時代は、旧来の図書館のあり方に良い悪いは別として疑問を持つところから始めた。本当に図書館は静かであるべきなのか、あるいはもう少し賑やかでも良いのか、今社会が何を求めているのかと。実は欧米の図書館などは比較的賑やかである。迎合すると言う意味ではなく社会も変貌しているのだから図書館も変貌していかなければいけないのではないかと。武蔵境に作った武蔵野プレイスは、色々な方たちが色々な目的で色々な活動ができるような場所を作ろうと。だから当然賑やかなところも作るし、もちろん旧来の静かなところもできるだけ確保して、一つの目的だけではなく、色々な方が楽しめるような図書館を作っていきたいというのが大きな目的。最近はそのような図書館が多い。一番近くでは大和市の「シリウス」。岐阜の「メディアコスモス」も担当者がここは賑やかですと言っていた。荒川区の「ゆいの森あらかわ」など複合館と言われているものは、たくさんの方たちが色々な目的を持って来てもらうというのが主流である。今回は図書館単館だが、そういうスペースができるのであれば、今まで利用しなかった層、あるいは滞在ができなかった層にぜひ滞在していただきたい。武蔵野プレイスの2階に児童書コーナーと一般書コーナーを作ったが、そこはわざと音が入るようにしている。子どもは話をすることも泣くこともあるし、走り回ることもある。それを一般の利用者は帰れとは言わないまでも、早く帰ってほしいという雰囲気になってしまう。一般の図書館はそうである。そうなるとお父さんお母さんたちは、読み聞かせしようと思っても本を借りてそのまま帰ってしまう。そうではなく、ここに滞在してもらいたい。例えば、カフェの音やほかの人の話し声など、自分たちが音の発生源ではない環境が、私たちはここにも良いんだという雰囲気につながる。ですから単館であったとしてもそういった場所は今後の図書館に必要なと思っている。

会長

計画していたことと異なり、困っている点や課題があったら教えていただきたい。

- 委員 計画を作った時の集客人数よりもはるかに多い人数が来館している。計画では、年間80万人位としたが今は195万人位来ているので、どのスペースも一杯になっている。ちょっと想定外のことが起きてしまった。
- 会長 想定外の事態で頭の痛い問題ではあるが、多摩市の新中央図書館もそうした課題に直面することを期待したい。
- 委員に伺いたい。子どもの利用者が話題に上ったが、公園と一体化した図書館を目指した整備が進められている中で、子どもの利用という視点から何か意見があったらお聞きしたい。
- 委員 今回の図書館は、本当に静かでなければいけない。私は静かなところが少し苦手で、自分も少し音がするところで本を読みたい、少し音を出せるところで勉強したい。子どもや孫を連れて行くと、孫が走り回り、その時に「シー」という雰囲気はどこに行っても感じられる。これは何とかならないかと。居心地があまり良くないというか、静かにするという概念があまりにも強すぎると思っている。話しが違うかもしれないが、多摩市は保育園が足りない状況になっている。多摩市は安心して子育てができるという環境づくりのアピールをしていくことも考えていただきたいと思っている。
- 委員 事務局からスケジュールの話があったが、建築の専門家ではないと、基本設計と実施設計は何が違うのかわからない。どのあたりまでが基本設計で固まり、実施設計はどこからどういう形までなのか。このことがわからないといつ何を言えば基本設計に反映できるのかできないのか。説明できるのであればお願いしたい。
- 会長 3回目のワークショップは図面を見ながら行うことになる。その意味でも、提示した意見が反映できる余地がどの程度あるのかは、ワークショップの参加者にとっても、私たち図書館協議会にとっても重要な点であると考えている。
- 委員 ハードとは、デザインとしてのハードのみならずいわゆる施設のコンセプトを実現するために必要な手段であるサービス、いわゆるソフトを補完するためのものでもある。したがってハードは単にこの部屋があれば良いというのではなくて、この部屋はどのようなサービスを展開していくためにどこにドアをつけていけば良いかという細かい話になっていくのであって、基本的にハードは重要である。ハード、ソフトというのは車の両輪で、両方とも欠けると成り立たない。
- そのことを十分に踏まえて議論していかなければならないと思う。
- 副会長 この間私はCグループで、現地に関係性を見に行ったとき、各班にワークショップの担当の佐藤総合計画の方が付いていた。その方が段差解消のスロープのところに来た時に、これはイメージだけれどこの緑は多分残

と思うという発言をされた。私は道路から駐車場と橋の間の土地は全部削ったうえで平らなところに建物が建つのだろうと想像していた。緑地を残すということは全く考えていなかったのが驚いた。あの土地をどう使うか、緑を残してほしいというご意見も強くある。ワークショップの他の班の方が話していたが、子ども教育常任委員会で議員からの質問に、スロープを残すには、少し湾曲した形、つまりバナナのような形と答えたい。私が考えていたのと違う形の想定が話された。私は逆に床面積がどうなるのか心配した。あの段差の中であのボリュームの建物を建てる。そしてしっかりとした書庫機能を作る。その書庫は将来的に増築ができる可能性を残しておくことが基本計画に書かれているので、そういう作り方をしなければならない。どのようにアイデアを盛り込んでそれができるのだろうかと考えた。私は限られた情報からそういうことを言っているが、市民は勝手にそのようなことを思ってしまう。やはり佐藤総合計画はプロポーザルでどういうプランを出して1位になったのか、イメージを共有できなかったで、市民に早めに情報を出すことが私は大事だと思っている。

質問は、そのイメージは誰が答えたのか、本当なのか聞きたい。

図書館本館
整備担当課
長

議会の中では、前図書館本館整備担当課長が答弁をしたと記録で残っている。広場系のフロアや静寂系のフロア、そういうものを用意したい。広場系のフロアは委員からも話があったように、市民の方が自由に話しができるフロア。静寂系のフロアは、静かに勉強・読書ができる場所という発言をしている。そういうものを検討しているという段階での説明、議会から問われたときの説明になるので、まだそれが確定しているわけではない。ワークショップの中で職員や設計者の、これは残ると思いますという意見があったかと思うが、それも全て確定しているわけではない。

私たちの中では内部的に法令上の制限とか敷地の制限、地盤の関係など様々なものを考慮しながら詰めているところ。その詰めた中身をワークショップの3回目で「図面・模型を見よう」のテーマを考えているので、お見せしたいと思っている。7月には市民説明会も考えている。その中でバナナ状になっているかもしれないし全然違うかもしれない、現段階で確定はしていない。

副会長

できるだけ早く市民がイメージできるものを見せていくことは大事ではないか。

委員

細かく形を見たわけではないが、日比谷図書文化館が芸術を見せたり、色んな展示を見せたりと、図書館機能が一緒になっているのが非常に参考になる。グループEで書かれている「パルテノンとタイアップした企画ができる」とあるが、パルテノンと図書館があって、建物がどうということではなく、垣根を越えて連携できると良いと思う。ロールモデルと

	して日比谷図書文化館は参考になると思う。
会長	近接してパルテノン多摩がすでに存在している中、中央図書館をどのように文化教育施設、あるいは社会教育施設として位置づけるのか、また二つをどのように連携させていくのかは大きなテーマであり、今の指摘はそのとおりである。日比谷図書文化館はさまざまなイベントを実施し、盛況な時は満員で入れないこともあると聞く。イベントを始めとした多様な活動も、図書館主導だけではなく連携という形でやっていく必要があると理解する。
委員	静かな場所と話ができる場所を作る話があったが、まだ確定ではないということか。
図書館本館 整備担当課 長	基本計画の位置づけで、「広場系」と「静寂系」と記述をしてある。基本路線はそういう考え方で進めている。
委員	私の体験だが、子どもが小さい時永山図書館の児童書のコーナーに行った。通路が重なっているところが多く、死角が多かったのだと思う。ほんの一瞬目を放した際にお財布を盗まれてしまった。本当に一瞬だったが、子どもだけにいることもあり、その時に伺ったらその時期窃盗が多く、その場所が死角になっていることを分っていて目を放した際に盗んだものだ。どこにいたのか存在さえも気がつかないくらいだった。子どもだけにいるような所は、なるべく死角ができないように。目が届くようにすることで安全になるのではないか。
会長	重要な指摘である。動線計画はもちろん、それによって死角ができてしまう点については、設計事務所も含めて考えていると思うが、念には念を入れて、何度も確認いただくことが大切だと強く感じた。 また、今回の計画では災害対策のことも念頭に入れていると聞いているので、広く危機管理という点でも、全国の模範になるようなものができるとう良い。
図書館本館 整備担当課 長	補足をさせていただきたい。
企画運営担 当主査	委員から資料提供が不足しているというご指摘をいただいた。私どもも「振り返りシート」を確認させていただき、基本構想と基本計画については冊子で配付するのは難しいが、概要版を印刷して準備している。明日は各メンバー全員に配付するとともに、冒頭本館整備担当課長から説明する形で対応できればと思っている。 それから常世田先生のPR不足は認識しており、今後工夫しながら取り組んで行きたい。

広場系と静寂系については、基本計画を取り込んで設計を進めていきたい。

基本設計と実施設計はどの辺が違うかについては、基本設計は業務内容が平面・立面・断面計画・構造計画・設備計画・電気・空調・給排水の作成。それから工事費の積算などがある。実施設計は更に深く検討を進めるもので、基本設計で計画されたものの詳細図面とか仕様書の作成。次の建築工事に繋いでいくものになる。基本設計のベースになるものが基本計画で、その中でも建築計画をベースに取り組んでいる。それに対して市民の皆さんのご意見を取り込みながら進めていくというのが基本設計である。

会長 基本計画の委員も務めていただいた常世田氏が参加することを十分PRできなかったのは残念だが、概要版を配布いただけるということで安心した。

委員 土砂災害警戒区域について多摩市から公表されているが、図書館のあたりは該当していないのか。

図書館本館整備担当課長 把握できていないので、調査して回答する。

委員 この地域がどうなのかお聞きしたいと思った。

企画運営担当主査 土砂災害警戒区域の関係は把握していないが、建設予定地は今地盤調査をしている。傾斜地であり、しっかりした地盤の層に杭を打ち、建築物を作ることに取り組んでいきたい。

会長 学校教育関係者である委員に伺いたい。中学生といったローティーンエイジャーの子どもたちに関連して、ご意見いただきたい。

委員 多摩市の図書館は、多くの市民がたくさんの本を借りている。また、図書館数が多いことで多摩市の力の入れ方がわかる。基本設計や実施設計に関して、色々な情報をいただかないと、役に立つ意見が言えないかもしれない。情報を共有していただければ意見も付加して言えるのではないか。今後のスケジュール、見通しみたいなものもあるとよいと感じた。

中学生の子どもたち、今年入学した一年生はとても図書室が好きでよく本を借りている姿を見るが、生徒の中には、こんな静かなところに入ると息が詰まってしまうと言う子もいる。確かに静か過ぎて、強制的な静かさは気持ちが悪くなってしまうのかもしれない。電車の中で本を読む人がいたり、外国では公園で大学生が本を読んでいたたり、海のビーチで日焼けしながら本を読んでいたたり、人は自然の音の中では本が読めるのではと感じた。それが騒いでいる人がいたりすると雑音になってしまい集中できなくなってしまう。その中でどういうルールを作り、そのルールの中で子どもの安全安心を作る、そんなところも考えられていくと良いと思う。たくさ

んの市民が本を自由に借りに来られる場所、また安心して安全な場所、ここに来れば勉強もできる、本も読める、それが多摩市の良い所の宣伝になる。パルテノンもあり、この図書館本館に来るまでには桜美林大学もあり、桜美林大学とも協力して何かできればとも思う。

多摩センター駅からこの本館までのアクセスは少し遠い。やはり高齢者や身体の不自由な方が新しい図書館に行きたいと思ったとき、諏訪の方で試された自動運転のバスのようなものも試してみると宣伝にもなる。この辺を自由にバスみたいなもので往復してくれると使う人も増えるのではないかな。

会長 巡回バスの件を含め、図書館に行きたいが行けないというアクセス問題について、それが解消されるような環境整備を望むご意見は大変貴重だと思う。

図書館協議会の委員は2年の任期があるが、多摩市には分室を含め全部で8つの図書館があり、今存在している図書館のことについても私たちは議論しなくてはならない。その一つとして、今年度から図書館が作成した事業計画が適切に取り組みされたかどうか、これは図書館職員が自身で確認する機会を設けると同時に、外部から見た時にそれが適切に実行されているかどうかという意味で外部評価を行う。自己点検と外部評価の2つの目で事業計画を精査する。それを今年度から試行的に始め、色々工夫を凝らしながら、どういう評価のあり方が望ましいのかということを考えていこうというのが、今期の大きな目標の一つになるかと思う。齋藤委員には、学校図書館と図書館の連携が重要な課題の一つになっているので、そういった視点からも多摩市図書館の活動に対して積極的にご指摘いただきたい。

委員 ワークショップは、市民が参加をしてそれが実現できるので非常に重要だと思っている。3回のワークショップで出た意見が、計画の中に入ることか入らないのか、フィードバックする予定はあるのか。市報やホームページに出すなど。

図書館本館整備担当課長 7月に市民説明会の開催を考えている。市民説明会では、ワークショップからの意見・提案を踏まえて、整理した上で説明したいと思っている。

委員 参加した人は自分たちの意見がどうなったかが分からないと一番不安である。

会長 ワークショップは単なる意見出しの場ではない。参加者自身が自分たちが意図するものを形作り、その中である部分は妥協することもあるけれども、自分たちでここまで成し遂げたというその成果があつてこそその活動であると考えている。先ほども指摘があつたが、フィードバックなり、目に見え

-
- る形で参加者にその成果が届くよう完結させていただけたらと思う。
- 副会長 職員のかかわりだが、1回目のとき各班に市の職員が1人ずつ入っていた。図書館職員だけでなく、施設保全課の職員もいたと思う。新しい図書館を作っていくという経験は多分二度とないかもしれない。各班に図書館の職員が入ることは無理なのか。
- 図書館本館整備担当課長 そうしたいと思っているが、図書館開館日の土曜日で多くの職員を参加させるのは限界がある。今回は基本設計ワークショップということで、設計の所管課の職員も勉強させていただきたく、そういう職員も配置している。全て図書館職員が入るのが理想だが、現状はそのように捉えている。
- 副会長 ぜひ、更にお願したい。
- 会長 ほかになれば、議題3件を終了する。続いて報告案件「令和元年度多摩市立図書館事業計画について」を事務局から説明をお願いする。
- 図書館長 令和元年度多摩市立図書館事業計画は、平成30年度第4回図書館協議会において案としてお示ししてご意見をいただき、その後事業計画として決定したので本日報告する。先ほど会長から話しがあったように、この計画を翌年度に評価をして、更に次の年度の事業計画に反映していくことにする。
- 会長 令和元年度多摩市立図書館事業計画について、資料1-2を説明。
何かご意見、ご質問はあるか。
今説明いただいた事業計画には、複数の計画、行動計画があり、そこはかなり細かなものも含まれている。ここに記載されているものは大枠が示されているとの説明である。そのことを理解したうえで、評価の際にはその一つひとつについて事務局から具体的に説明いただきながら、図書館協議会としての外部評価ができればと考えている。その時には適切な情報提供をお願したい。
- 図書館長 平成30年度はこのような計画で、実際にこのようなことをやりました。自己評価はこうです。それに今年度ではこういうことをやっているということまで話をさせていただければと思う。
- 会長 事業計画については以上とする。これで全ての議題報告は終了した。その他委員から何かあるか。
- 副会長 前年度2月の図書館協議会のとき、松本会長から提案のあった図書館協議会の委員の定数及び回数について、協議会の活性化を図ろうという提案があった。基本計画の中にも提案されていることだが、その後の検討状況をお聞きしたい。
- 図書館長 前年度の図書館協議会で提案いただいた。委員の人数等を変えるには条例の改正が必要である。新本館に向けての検討の中で、この提案についても検討していきたいと申し上げた。ここ数ヶ月で具体的に何か決まったこ

とは無い。随時報告はしていきたいと思っているので、いずれこの場でもご意見いただき協議していくことになる。

会長

本日の予定はすべて終了した。これで令和元年度協議第1回定例会を終了する。